

令和7年度第2回山形市男女共同参画審議会会議録

日 時 令和7年12月18日（木）午前10時～正午
場 所 山形市男女共同参画センター 5階視聴覚室

I 出席者

- 1 委員（11名） 柿崎会長、佐藤（善）委員、中村委員、中嶋委員、中森委員、高須賀委員、塩野委員、菅野委員、渡邊委員、佐藤（朋）委員、森山委員
※欠席委員（4名） 田中副会長、上條委員、中川委員、長岡委員
- 2 幹事（2名） 伊藤企画調整部長、高橋男女共同参画センター所長
- 3 書記（4名） 遠藤副所長、板垣係長、大石主幹、後藤主査
- 4 運営事務員（1名） 山本事務員

II 傍聴者

- 1 一般傍聴者 0名
- 2 傍聴した記者 0名

III 会議

- 1 開会 大石主幹
- 2 企画調整部長あいさつ 伊藤企画調整部長
- 3 会長あいさつ 柿崎会長
- 4 報告

令和7年度事業進捗状況について

事務局より資料1に基づいて説明

一主な質疑—

(委員) 高校生向けの事業について、例えば家庭と仕事の両立の意識を高めるといった観点から、女性ばかり意識が高まり、男性の家庭に関する意識が余り変わらないと思うが、男子高校生向けのフォローアップに関する企画についてどのように考えているのか伺いたい。

(事務局) 男女問わず、今後のジェンダー平等について様々な事業を展開する必要性は認識している。その上で、今年度は、性別を理由に今まで夢を諦めているようなところがあった女子高校生にスポットを当てたところである。

若年世代からの男性の家事・育児参加の意識啓発については、次期男女共同参画プラン策定にあたり、テーマの一つとして議論していきたい。

(委員) 男性育児休業取得促進動画のインタビューを受けた男性職員の部署を伺いたい。

(事務局) 職員本人とも協議し、部署は伏せて公開することとしたので、お答えは控えたい。

(委員) ファーラの広域活用という点で、上山市の方の相談件数が増えたことは山形市の連携中枢都市圏のトップランナーとしての役割を数字で示すことができていると思っている。

女性人材育成事業について、女性リーダー育成事業の参加者が今後、それぞれの企業に戻り何かアクションを起こされたときに、フォローアップができるような、相談できるような体制になっていれば良いかと思う。

Girl up！は他委員からご意見があったように男子高校生への働きかけは必要かと思う。そ

のうえで、地元は高校生に何ができるかということをマッチングしていかなければいけないと思う。基本として、女性定着という目的はあるわけだが、それを超えて、教育の一環としてこのような取組があるということはすばらしいことだと思う。さらに企業見学後に、キャリアマップを書くなど、教育現場ではなかなか手が届かないところでもあり、企業の人材を活用しているということはすばらしいことだと思う。地元定着については、山形市だけでなく連携都市圏内市町でも課題になっていると思うので、各市町の男女共同参画の担当者に声がけし、こうした事業を1回でも見てくればいいのか、そしてみんなでともに盛り上がっていきましょうという場面もあっても良いのではないか。

審議会委員への女性の参画推進について、審議会の女性委員比率は内閣府のデータから全部読み取れるので、全国平均まで行くにはあと何人必要かなどというデータでもって働きかけすることも必要と思う。

自主企画講座に関連して、おむつかえ方などの育児に関する講座は産科や市などでパートナーと一緒にしているが、一過性と感じるため、抱っここの仕方、お風呂の入れ方、着替えやお薬の飲ませ方などを3回シリーズぐらいで学びたいといった声を聞いた。

男女共同参画の事業は、生涯学習の中にも入り込んでいるような感じがあることから、そういったことも含め、広報などを通し市民への周知を図り、センターの活用が向上するよう努めていただきたい。

(委 員) 所属する会で連携中枢都市圏内市町における男女共同参画の取組について伺うために、昨年度からそれぞれの担当課を訪問しているが、感じたことは男女共同参画担当の係の方を1人きちんと作って、施策に取り組んでいただきたいということである。昨年度訪問した自治体の方の利用が減って残念であるが、引き続き男女共同参画意識とファーラ利用向上のため、会としても活動していきたい。

(委 員) Girl up!について、1回のみの開催はその場しのぎになると思うが、4回コースで、さらにキャリアアップシートを作成するなどすばらしい取組と思った。山形は子育てをしながら仕事をする、子育てに限らず、家庭生活をしながら仕事をすることが非常にうまくでき得る地域ではないかと思う。都市部のことを考えると、結婚して働く、育児をしながら働くというのは、とても負荷がかかると感じる方が多く、そういったことも含めて、人生感を養うような取組になっているのではないかと思ったところである。

この事業に参加された高校生について、どのような形で参加の呼びかけをされたのか伺いたい。

(事務局) 12名定員であったが、結果的に13名ご参加いただいた。

参加については、広報やチラシなどを見て、自らの意思で申し込んだ方もいたが、多くは学校に出向いて参加に至っている。センター職員が直接、先生に対して事業のPRを行い、先生を通して、生徒さんに事業を紹介いただいたことがきっかけとなった。

なお、来年度も Girl up!を継続する予定であるが、今年度同様、学校に直接アプローチを行うが、委員の皆様方からも参加のお声がけをお願いしたい。また、効果的なPRの方法があればお寄せいただきたい。

(委 員) 参加された高校生の学校名を伺いたい。

(事務局) 山形西高校、山形中央高校、市立商業高校の3校から参加いただいた。

(委 員) Girl up!について、地元定着という課題は、高校生にアプローチをしたほうが良いのではないか。

いかと Women's Campus 山形での活動を通して出ていたので、すぐ形になって良い取組だと思う。山形は実家にいる子どもがとても多いので、そこを踏まえて、何らかの事業を通し、保護者からも今の子どもたちの視点を知ってもらいたい。家庭に戻ったときに子どもたちが学んだこともリセットになってしまふこともあり、子供だけが変わる世界ではなく、保護者の考えも少しずつ変わっていかないと、社会全体が変わっていかないということを感じている。

来年度も実施予定とのことで、今年度参加した生徒たちの活動内容を共有し、もっとやってみたい、もう 1 回やってみたいという声や周囲でもやってみたいと言う生徒がいると思う。また、今年度参加者たちから、どういった参加者を増やしていくかなども考えてもらうと、より様々な生徒に広がっていくのではないか。

(事務局) 今の就職事情がどういうものかを保護者の方からもご理解いただくために、山形市では、数年前より大学生の子供を持つ保護者向けのセミナーを実施しており、先ほどいただいたご意見などを担当課とも共有しながら、よりよいものにしていければと思う。

Girl up!について、来年 3 月に学びの総括としてフォローアップイベントを実施する予定となっており、来年度に向けた話も交えながら、参加者同士で共有する機会も設けたいと考えておりますので、いただいたご意見も踏まえて、その内容に生かしていければと思う。

(委 員) DV 防止及び支援対策の一環として、実習生に啓発パネルを作成していただくなどとても効果的な取組で、後のアンケートでも、相談窓口を知っている人の割合は非常に高くなっているということでとてもすばらしいと思う。

ただ、実際相談するところまではなかなかつながっていない部分もあるようだが、現状、DV 被害の女性や困難な問題を抱える女性の相談、結構増えているという実感がある。さらに課題は多岐にわたっており、DV に関しては障がい者虐待や高齢者虐待に生活困窮なども重なってくる部分もあり、それぞれの担当課との連携なしには本当に何もできない状況である。山形市でも DV 対策庁内連絡会議を開催したといった報告もあったが、各課で支援できることはたくさんあるかと思うので、連携が本当にうまくいくような体制づくりを目指していただきたい。

(事務局) 市役所内での連携がとても大事だと思っており、相談者の方が同じ内容でたらい回しにされるようなことがないように心がけている。

一方で相談者の情報や相談内容が不必要に漏れることはあってはならないため、取り扱いに十分注意しながら、必要な情報はきちんと共有し、また一方で個人情報をきちんと守りながら、今後も市役所内で連携して対応していく。

(委 員) 男性の育児休業取得促進について、行政が率先して、男性の育児休業を取得することはすばらしいことだと思うが、民間と公的機関とでは何か壁のようなものを感じているところがあり、民間企業では職種にもよるが、特に男性が多いような職場ではなかなか育休取得が難しい職場もあると思うので、広報やまがた「未来をひらく人と企業」において、男性社員の育休促進に取り組む企業や女性が働きやすい工夫をしている企業を取り上げていただきたい。行政機関だけの育休取得促進の取組だけでなく、民間企業の紹介もしていただけると市民としては共感できるうえ、紹介されている企業さんの取組を見て、うちの会社でもそのようにしていかなければならないのかなど、意識が非常に高まるのではないかと思った。

先ほどのインタビュー動画も、行政機関の職員だけでなく、できれば、民間企業も取材して

いただき、生の声を掲載いただけすると、今後、より世の中に男性育休取得の風潮が広まっていくのでは思っている。

(事務局) 広報やまがたで取り上げる企業については、ご意見を参考にさせていただき、男性で育児休業を取得しながら仕事も頑張っている方や働きやすい環境の整備を行っている企業などの情報をキャッチしながら、今後の掲載について反映させていきたいと思う。

インタビュー動画について、今回は山形市職員だったが、連携中枢都市圏内の他の市町職員にも対象を広げていき、さらに民間企業にも広げていきたいと考えている。

(委 員) 一般相談について、同じ相談者の方がどの程度の割合で相談に来られているかを把握しているか伺いたい。相談に来てもこれが解決につながらなかった、もう一度言葉にしなければならないといった事情があるとしたら、そのつなぎ方をもうちょっと工夫する余地があるのではないかと思うがいかがか。

(事務局) 何度も相談される相談者は一定数いらっしゃる。どちらかといえば、すぐにでも解決したいということよりも、話を聞いてもらって、自分の心のバランスをとっているという方も多く、心の悩みに寄り添うという意味では目的を達成していると考えている。

例えば、今後離婚したいなど、カウンセリングだけでは解決できない相談も受けているが、相談員は、的確にアドバイスするというよりも、丁寧に心を解きほぐしていって自分で気づいてもらうというところを目的にしているところもあるので、時間をかけても、少しづつ少しづつ、相談者にとってベストなゴールを目指すことでできているのではないかと考えている。一方で、本当にその相談対応で良かったのかという検証は、どの相談員でも必要なことだと思うので、相談員と情報共有をしながら、資質向上なども図っていただきたいと考えている。

(委 員) 様々な事業の募集などをインスタで発信しているということで、たまにファーラのインスタを見るが、閲覧数がとても少ない印象があるので、工夫が必要なのかなと思っている。

同じ山形市の様々なインスタですごく閲覧数が多いのもあるようなので、見ていただく研究や情報交換などをするほかに、他のインスタをきっかけにして、若年層からいろいろな活動の応募をしていただけるのではないかと思う。応募はラインなどの方法でも行えるなど様々工夫しながら、活動を広めていっていただければと思う。

(事務局) インスタの工夫はとても重要だと思っている。今年度から始めたばかりで、なかなか専門知識がないまま試行錯誤している状態ではあるが、見て楽しめる、また、いろんな情報をお届けできるように、少しづつ工夫していきたいと思う。

(委 員) Girl up!のチラシをデジタルで作っていただいて、そこに二次元コードをつけると、チラシはデジタル版で生徒に行くことになっており、興味のある生徒はそこから入るので、デジタルでどんどんと広報したほうがいいと思う。また、今年度同様、直接、学校に行って先生にご理解を求めるという方法も非常に効果的だと思う。

5 協議

(1) 男女共同参画に関する「一行詩」の審査について

男女共同参画に関する一行詩の応募作品のうち、中学・高校の部の入賞作品の審査を行った。

(2) 男女共同参画に関する市民アンケートの結果について

事務局より資料2に基づいて説明

—主な質疑—

- (委 員) 目標値の考え方について、例えばDV被害を相談した人の割合50%という目標値について、どういった意図で数値を設定したのか教えていただきたい。また、DV相談窓口を知っている人の割合は高いが、相談した人の割合が芳しくないという報告について、(ハラスメントに関する)相談を日々受け付けている中で、相談窓口は知っていたが、相談しても何も解決に至らないのではないかという方もおり、結局、問題がこじれてから相談に来られたため、なかなか解決が難しいという状況も見受けられるので、ぜひ次期計画策定にあたり、ささいなことでも相談できます、ちょっと疑問に思っただけでも相談においでくださいなど周知の仕方を工夫したら良いのではないか。
- (事務局) DV被害を相談した人の割合50%の目標値の設定根拠については、以前の第3次プランの目標値として設定したもの達成できなかつたため、現プランである第4次プランにおいても改めて目標値として設定したものである。
また、相談窓口を知っていたが、相談につながっていないという現状については、今回のアンケート結果を通し、明確な課題と捉えているので、より相談しやすい窓口の周知、例えば山形県で今年度から実施している「女性のためのSNS相談窓口」などは、電話や対面よりも相談しやすいツールと考えているので、より一層周知していきたいと考えている。
- (委 員) 指標に男性の1日平均の家事時間ゼロ分という項目があることに衝撃を受けた。1時間以内という数値ならまだ意味のある項目だったと思うがいかがか。
- (事務局) 男性の家事時間ゼロ分は、以前の第3次プランの目標10%以下を達成したため、現プランにおいては、指標というよりも見守っていく必要のあるデータ、モニタリング指標として位置付けている。残念ながら前回結果よりも増えているが、前プランの目標10%以内にはなっているため、引き続きモニタリングを続けようと考えている。
- (委 員) ゼロ分という選定時間設定について、どのような考えだったのか改めてお伺いしたい。
- (事務局) ゼロ分というのは文字どおり、全く家事や育児等をしていないという男性であり、これまで実施したアンケート結果でも、全くやっていないという方もいたため、その方を減らしていくといった意味で、ゼロ分という指標を設定した。
- (委 員) 正直甘過ぎると思う。
男女共同参画センターではそういう考えだったのかという印象と感じる。
- (委 員) 国において、家事に費やした時間なども含めた生活時間についてのアンケート結果やそれらの全国平均などの数字等も参考にしながら、次回以降検討していただければと思う。
- (委 員) DV被害を相談した人の割合の母数について伺いたい。
被害を受けられている方が相談したいと思ったが、相談できなかつたということであれば、改善していく必要があるのではと思った。
- (事務局) DVを受けたことがありますかという質問が前段にあり、被害を受けたことがあると回答された方が母数となっている。
- (委 員) 社会通念やしきたりに関する事項や男女平等と思う人の割合について、年代別に示して説明していくのが効果的だと思う。また、若年層の考え方を年代が上の方たちにも理解していくために必要だと感じる。
アンケート結果等については、市の総合政策などの指標にも使用されたりすること思うが、

アンケートの数字の取扱いは、非常にセンシティブなところがあるので、分析する際留意願
いたい。

(委 員) 社会通念やしきたりで男性優遇と感じる人の割合について、男女問わず質問した結果なのか
伺いたい。

また、男性の回答で女性が優遇と感じる割合も伺いたい。

(事務局) 社会通念やしきたりで男性優遇と感じるかという質問は全員に伺っており、その結果、
70.7%の方が男性優遇と感じているということになる。

また、女性が優遇されていると感じる方については、男性9.8%、女性0.9%の方が女
性優遇と感じており、男女でとらえ方が違うような状況である。

今回の速報値は、全体の数字のみ示しているが、次期プランをご検討の際の基礎資料として、
詳細なデータを示していく。

(3) 次期プラン策定スケジュール（案）について

事務局より資料3に基づいて説明

原案どおり承認

(4) 次年度以降の事業計画（案）について

事務局より資料4に基づいて説明

—主な質疑—

(委 員) 男女共同参画に関する一行詩について、男女共同参画というところを中学生が意識してい
るかというと、漠然とした思いの方が強いようで、表現が同じようになってしまふのかとも
感じているが、男女共同参画に関するさまざまな取組は、生徒には浸透していると思
っている。また、例えば育児休業取得を考えている男性の教職員がいても、職員よりも保護
者の方の理解が非常に進んでいるような状況であるため、保護者においても浸透している
と思われるため、廃止で賛成である。

(委 員) 女性の流出を防ぐとともに、なるべくこちらに戻ってきたいという男性がいる。

働きやすさ追求室で取り組んでいる「山形キャリアフェス」来年2月4日、東京で開催さ
れることを知ったが、若年層の地元定着とも関連するので、どのような状況であったか情
報共有いただければと思う。

(事務局) イベントに何名来場したか、参加者がどのような反応だったか等情報共有する。

原案どおり承認

6 その他

なし

7 閉会

大石主幹